



<本年度クラブ会長方針>

No.1534

広げようローターの想い、職場に社会に

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
 会長 大原敏正 事務局 名古屋市中区栄4-7-10 栄第8ロイヤルビル6F
 幹事 鬼頭茂成 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
 URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

ローターは機会の扉を開く

<2020-21年度 R.I.テーマ>

R.I.会長 ホルガー・クナーク

第1804回例会

母子の健康月間
 令和3年4月1日(木)
定款規定による休会
 例全変更 岡部

大須観音しだれ桜観音会
 *新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、定款規定による休会とする。

出席計算数 会員54名
 54名中54名出席
 出席率100%
 前々回出席率100%

休会特別版

会長挨拶

大原 敏正

皆さんこんにちは。本日の例会は場所と趣を替え、大須観音で観音会の予定でした。残念ながら大須ロータークラブが植樹しました枝垂桜は、山桜で4月が開花時期ですので、まだ蕾も固く花見とはなりません。

「桜」は主として北半球の温帯に広く分布しますが、美しく咲く種類はアジア特に日本に多く集中しています。欧米では「実桜」主に「ヤシロバナ」採取用の樹種で、花は決して美しくは有りません。日本人は特に桜を好み昔から園芸種として改良を加えています。桜の原種は10種類といわれ、派生変種は100種類以上、園芸改良で600種以上有ります。最も有名な桜は「ソメイヨシノ」で、現

在日本で見られる桜の80%を占めています。数年前に韓国から「ソメイヨシノ」の原種が済州島にあると言いがかりが付けられました。江戶時代に「エドヒガンザクラ」と「オオシマザクラ」を人工的に接ぎ木してつくられた雑種で決して自然にはできません。

次に有名なものは「エドヒガンザクラ」で一般的に枝垂れ桜と呼ばれています。日銀名古屋支店の前に有名ですね。「可桜」というものもあります。高さが低く小さな花が下向きにつむむへ、花と葉が同時につける事も多いので、淡い桃色と新緑のコントラストが美しい桜です。「山桜」は変種や園芸種の親桜となる事が多く、開花と同時に若葉が染め、秋には美しい紅葉も楽しめる桜です。

「カンヒザクラ」は3月上旬から咲き始め、濃いピンク色で中国台湾、沖縄に自生する早咲きの代表です。「河津桜」は3月上旬から1ヶ月くらい長く咲き続ける特徴があり、「カンヒザクラ」と「オオシマザクラ」の交雑種だそうです。以前ローター家族旅行で瀨美半島に見に行きましたが、残念ながら寒すぎて咲いていませんでした。



た。「寒桜」はまだ寒い2月下旬ころから咲き始め熱海付近に多く見られることから「熱海桜」とも言われています。

「こころ」日本三大桜をご紹介いたします。第一は福島県の「三春滝桜」です。滝が流れ落ちる風情のサクラで樹齢が1000年と言われています。

第二番目は岐阜県「根尾谷淡墨桜」で樹齢1500年、咲き始めから散り際まで桜の花の色変わりが有名です。第三番目は山梨県の「山高神代桜」です。樹齢が2000年と言われ、ヤマトタケルが植えた桜として言い伝えられています。

これら桜を見に行かれた方も多くいらっしゃると思いますが、この「大須観音枝垂れ桜」も大須の新社所として、これからも愛でて大切に広めて行きますように。今日は「は」の話ではなく「はな」の話でした。

「今日一日笑顔で過ごしましょう」
 ありがとうございます。

大須観音しだれ桜観音会(休会)
「枝垂れ桜」 岡部 快圓
 平成25年11月に名古屋大須口

ロータークラブ創立30周年記念に枝垂れ桜を寄贈されて早7年になりました。4年前には満開の見事な花を咲かせ枝垂れ桜特有の優雅な姿で参拝者の目を楽ませてくれましたが、それ以来一度も気品ある姿を目にすることが出来ません。

小生が京都の本山で奉職していた頃よく目にした枝垂れ桜は竹で吊り下げてあったので、その様にした所風通しも良く葉も十分茂ったので、本年は見事な花を咲かせてくれると淡い期待を掛けました。が成就しませんでした。

出入りの庭師の説明によると書虫や病気は無いし、木の精も良いので考えられるのは木の肌が白いのでもまだ若いから上へ上へと伸びようとしている様で有る程度落ち着けば幹も黒くなり見事に咲く様に成り名古屋で有数の枝垂れ桜になるでしょうとの事。先の長い話です。

観音会の枝垂れ桜の代わりに花桃がピンクと赤の花を咲かせて歓迎していますのでお楽しみ下さい。



「名古屋大須案内人RCC」支援金贈呈
社会福祉委員長 丹下 高博

当クラブが提唱し2019年3月14日国際ロータリーより認証を受けて結成された「名古屋大須案内人RCC」へ活動支援金を贈呈しました。

4月1日の「大須観音」だれ桜観桜会「例会せしモノ」で、活動支援金(下期)をお渡しする予定でしたが、この日の例会が急遽取り止めとなり、出席予定だった大須商店街連盟会長 堀田聖司さん(写真左)、名古屋大須案内人RCC隊員 吉田和正さんへ、当クラブ大須敏正会長のより贈呈しました。

「大須案内人」は、大須商店街に属する名所旧跡・神社仏閣とともに大須商店街の案内・紹介等をするボランティアガイドで、心からのおもてなしをモットーに、2010年3月から大須商店街「ふれあい広場」を拠点に活動をしています。観光の街として大須地域発展のために末永く活動できるように、提唱クラブとしての継続した支援をよろこび願っています。



その他・お知らせ

国際ロータリー・ニュース
「母子の健康」

毎年、5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定590万人。その原因は、栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものばかりです。予防可能な原因で母と子どもが命を落とすことなどあつてはならない。私たちロータリーは考えます。すべての母子が質の高い医療を受けられるよう、そして、出産で命を落とす母親がいなくなり、子どもがすくすくと成長できるように、私たちは支援活動を行っています。教育、予防接種、出産キット、移動クリニックなど、ありとあらゆる方法で母子の健康を推進しています。また、女性を対象に、HIV母子感染の予防、母乳による授乳、病気の予防に関する教育も行っています。

母子の健康における成果

私たちは、地域社会が自力で母子の健康を守っていくための研修と支援を行うことにより、持続可能なかたちで母子の健康を促進しています。

ロータリーによる活動の例：

・ 出産前ケアの移動クリニック

ハイチは、西半球で母子の死亡率が最も高い国。この国に、医療ボランティアと助産師が僻地に住む母子でも医療ケアを提供できるように、医療機器を搭載したジープを寄贈しました。

・ 可動式がん検診支援

インドにおける、可動式の癌検診機器一式の提供で、認識向上を目的とした研修の実施。

・ 産科手術の治療

自宅出産を安全に行うため、ロータリー会員が3000ドルを投入して5年間の試験的プロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、2005年以来、産科手術で苦しむ女性たちの尊厳と希望を取り戻すために、当初の目標を500人上回る1500人の治療を行っています。

「日本の姉妹都市との絆」

「フィジルの新生児を救う」

陣痛がはじまり、妊婦はおびえています。予定日は3カ月も先。一番近い病院は48kmも離れており、生まれても体重は1,000gに満たないでしょう。問題はもう一つ。病院の新生児集中治療室には保育器が7台しかなく、満員になると赤ちゃんを別の病院に搬送する必要があります。命を救う必要と求めたとしても、両親は数カ月も長距離の病院通いを余儀なくされます。

「フィジルの新生児を救う」は、Dr. Leopoldo Bevilacqua Regional Hospitalにも多くの妊婦が同じような困難に直面しています。設備が不足する、すでに危険な状態にある新生児をほかの病院に搬送しなければなりません。この影響は、サンパウロ州の高い乳児死亡率に表れています。「ユニタス」の現実があります。私立病院の費用を払える人と、払えない人です。払えない人は、24時間の力をカバーしている州立病院まで長距離を往復しなければなりません。Registiro Ourorotaリーククラブ(フィジルのプロジェクト)を主導したりナ・シミズさんはこのように話します。

そこで同クラブとRegistiroロータリークラブは、岐阜県中津川の2つのロータリークラブとパートナーとなり、グローバル補助金プロジェクトを実施しました。ロータリアンは172,500ドル(約1,600万円)を集め、新生児の集中治療室に保育器5台を追加これにより、それまでの倍近い新生児の受け入れができるようになりました。2013年には新生児129名、プロジェクト完了後も毎年、新生児約220名の命を救っています。

また、換気装置5台、ピリルビン測定装置1台、ベビーベッド3台、血圧・心拍数モニター5台、新生児黄疸光線治療器1台も設置したほか、住民を対象に出産前ケアのワークショップの推進にも貢献しました。この活動は、医療サービスや出産前ケア・母乳の重要性についてあまり知らなかった遠隔地の妊婦にとって、大きな支えとなりました。

中津川のロータリアンは以前、補助金で困難を経験したことから国際活動の支援を断念してしまいましたが、今回の経験が大きな転機となりました。



なりました。この変化を導いたのは、リスストロ市と中津川市の「姉妹都市」提携

です。双方のロータリアンは、定期的に交流して友好を深めてきました。だからこそ日本のロータリアンも自分たちの資金が有効に使われると確信できたのでしよう。日系人で日本語を流暢に話せるシミズさんの存在も、信頼関係に「コミュニケーションの構築」に大きく寄与しました。

「」には37年かけた友情と絆がある。中津川ロータリークラブの原満夫さんは、そう述べました。

記事執筆：Vanessa Glavinskas
写真：Robert Gill
/Rotary International
(国際ロータリー)から

4月15日(木) 例会の案内

卓話

「障がい者アートの魅力と可能性」
アート・オブ・ザ・フューチャー
理事 中道末枝さん

紹介者：春日井和良さん

公共イメーシ向上委員会

小津 幸男・横川 誠人
住田 正夫・山口 正孝
*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。